



# う 羽 化 が

1998年 4月  
第 7 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会  
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290  
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
編集責任者 宗 助 悦 子



## 小特集 『漢点字訳書紹介』

### 目 次

連載「EIBRK 漢点字変換システムについて」(7)	・・・・	i (中央)
小特集「漢点字訳書紹介」パート1	・・・・	1
同報通信『雑談』より 5	・・・・	6
点字投票	・・・・	8
小特集「漢点字訳書紹介」パート2	・・・・	10
連載「点字から識字までの距離」(6)	・・・・	13
連載マンガ「となりのシロー君」(6)	・・・・	15
「となりのシロー君」欄外編	・・・・	19
漢点字ってどんな字? 6	・・・・	21

## 小特集『漢点字訳書紹介』パート1

この度、横浜市中心図書館へ納入した書籍・プライベートルサ・ビスとして製作した書籍のご報告、および、現在計画中の漢点字訳書についてご紹介いたします。

### 御礼とご報告

代表 岡田 健嗣

新しい年度を迎え、昨年度の活動の成果についてご報告し、本会をご支援いただいております横浜市中心図書館様、横浜市社会福祉協議会様、神奈川県ライオセンター様等、関係各機関ならびに賛助会員各位、そして活動にご尽力下さいました本会の会員の皆さまへの御礼とさせていただきます。同様に、本年度の活動への更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本会の活動の柱は規約にもございますように、①視覚障害者からのニーズに応える、②基本的な資料の漢点字訳を行う、③漢点字学習用の教材になる資料を製作する、の三つを掲げております。この内三番目の学

習用教材の製作は、未だ実行に移せずしておりますが、前二つは、何とか「成果」と呼べるものをご報告できるものと考えております。

特に、一昨年度に引き続き、中央図書館様から、二タイトルの漢点字書のご注文をいただきました。去る三月二五日、製本まで漕ぎ着けたものを納めさせていただきますました。謹んで御礼申し上げます。

また、従来から朝日歌壇、同俳壇や、新聞の健康記事などの漢点字訳を希望者にご送付して参りましたが、この度、二タイトルの単行本を製作し希望者に配本致しました。

ここに、右四冊のご紹介をさせていただきます。

#### 一 横浜市中央図書館のご依頼により製作

1. 芥川 竜之介 著 『侏儒の言葉』

(全一卷)

### 侏儒の言葉

芥川竜之介著



704  
岩波文庫

本書は、一九八九年八月五日発行の岩波文庫版を漢点字訳したものです。初版は「一九三二年八月一日」となっており、本文の末尾に、「本書は、昭和三年発行の岩波文庫『侏儒の言葉』を底本とし、昭和三〇年岩波書店発行の『芥川竜之介全集』第一二巻を参照して、編集部において現代表記に改めたものである。」とあります。

この『侏儒の言葉』は、一九二三年から一九二七年にかけて書き続けられました。この一九二七（昭和二）年は芥川竜之介の亡くなった年です。すなわち、本書の執筆時期は、『河童』や『歯車』など、後半期の傑作の製作時期と一致しています。

本文は「箴言（アフォリズム）」という短い文章で構成されています。活字書原本には目次はありませんが、漢点字版には付けてみました。その目次から幾つか拾ってみますと、「『侏儒の言葉』の序」「星」「鼻」「修身」「好悪」「侏儒の祈り」……。この中から、一文をご紹介します。

《ある資本家の論理　「芸術家の芸術を売るのも、わたしの蟹の罐詰めを売るのも、格別変わりのあるはずはない。しかし芸術家は芸術と言えば、天下の宝のように思っている。ああいう芸術家の罨みにならえば、わたしもまた一罐六十銭の蟹の罐詰めを自慢しなければ

ばならぬ。不肖行年六十一、まだ一度も芸術家のようにはかばかしいうぬぼれを起こしたことはない。」》  
本書の解説を、昨年末にご逝去されました詩人作家の中村真一郎氏が書いておられます。その最後に、「この書物は、小説家芥川竜之介の楽屋の公開であり、その小説ノートだ、とも言えるのである。」と記しておられます。本書が、他の小説作品と並んで愛読される研究対象とされている理由は、そのようなところにあるのでしよう。

2. 新潮10月臨時増刊『短歌 俳句 川柳  
101年』  
(全一五巻 別巻一)



本書は、「新潮 一九九三（平成五）年一〇月臨時増刊号」として株式会社新潮社から発行されたものを漢点字訳したものです。

原本は、同社創立一〇一年を記念して企画、編集さ

れたものです。一八九二年から一九九二年までの一〇一年にわたり、毎年その年を代表する一冊を、短歌、俳句、川柳の分野から選んで収められております。文学史的な資料としても、この一世紀の短詩を鑑賞する一冊としても、この上ないアンソロジーです。

しかし大変残念なことに、原本は文芸雑誌『新潮』の増刊として刊行されたものですので、現在入手することができません。

漢点字版の構成は、一〜三巻が本文、一巻当たり八年分、一三巻には総目次を収め、一四、一五巻が索引になっております。

以下、目次と冒頭の樋口一葉の歌をご紹介致しますよう。

## 目次

1892 明治二十五年 樋口 一葉「戀の哥」・

幸田 露伴「谷中集」・骨皮 道人 編「古今川柳壹萬集」・NOTE

1893 明治二十六年 佐佐木 信綱 撰「千代田歌集・阿心庵 永機 撰「明治新撰・俳諧壹萬集第二編上巻」・催主 眞米「柳風狂句合」・

## NOTE

1894 明治二十七年 佐佐木 信綱 撰「明治歌

集・五百木 飄亭「俳句二葉集」より・催主 昇ル「甲午歳旦會兼薦江改名披露 柳風狂句合」・NOTE

1895 明治二十八年 税所 敦子 編「内外詠史

歌集」・正岡 子規「寒山落木」より・催主 芳野「水天宮奉額柳風狂句合」・NOTE

1896 明治二十九年 與謝野 鐵幹「東西南北」

・夏目 漱石「句稿」より・催主 昇旭「丙申歳旦柳風狂句會」・NOTE

樋口 一葉（一八七二〜九六）東京内幸町生まれ。

小説家。本名奈津。私立青海学校中退。中島歌子の萩の舎塾で作歌指導を受ける。……

よの人のまつらむ秋にあはじとやまづをみなへし花咲きにけり

## 歎名戀

みちのくの無き名取川くるしきは人にきせたるぬれ衣にして

## 祓友戀

竹馬のむかしながらの友にまでいはれぬふしを覺えつるかな

現在図書館に納められているものは、一〜三巻です。順次製作して納入させていたたく予定です。なお、別巻として、批評家の吉本隆明氏、短歌の三枝昂之氏、

俳句の夏石番矢氏、川柳の大西泰世氏の座談会を一冊にまとめる予定です。

## 二 個人のニーズにお応えしたもの

### 1. 島崎藤村自選『藤村詩抄』（全二巻）

本書は、一九九五年四月一七日発行の岩波文庫を漢点字訳したものです。

本書の構成は、「『若菜集』より」「『一葉舟』より」「『夏草』より」「『落梅集』より」と、四冊の詩集から、藤村自身が選んで編んだものです。文学者の吉田精一氏が解説をお書きです。

《（前略）第三次の改訂本がこの『藤村詩抄』で昭和二年七月の刊行である。（勿論、これは内容の点のみについてだったので、装幀その他の形式的な点を問題にすればもっと改版の回数が増える）

この『藤村詩抄』は、前の二集にくらべて詩の数が少なく、また体裁もことなっている。どのような観点から選び、また順序立てたかについては、序文に作者

がふれているが、なお精細な具体的研究を必要とする。ただ相当に重要な改訂が施されていることは、次の一例でもわかるであろう。（後略）》

と記しておられ、代表的な詩や詩集の成り立ちに言及されておられます。《（藤村の詩は）当時隆盛だった擬古派の詩のように、ことばに綺羅をかざり、形式の勝った種類のものではなく、あまりある情感を内に秘めて、つつましやかに嗟歎する所から生まれる内向的な美しさであった。》

島崎藤村は、言うまでもなく日本の現代詩の草分けを成し、日本の文学史の一ページを飾る詩人です。その言葉一語一語の美しさは、時日をおいた現在でも、決して風化するものではありません。私も、一度は触れなければならない詩人の一人に違いありません。漢点字訳書は二巻、前二集を第一巻に、後二集を第二巻に収めました。

『若菜集』より  
明治二十九年〜同三十年

仙台にて

〈序のうた〉

心無き歌のしらべは  
一房の葡萄のごとし  
なさけある手にも摘まれて  
あたゝかき酒となるらむ  
葡萄棚ふかくかゝれる  
紫のそれにあらねど  
こゝろある人のなさけに  
蔭に置く房の三つ四つ

そは歌の若きゆるなり  
味ひも色も浅くて  
おほかたは嘔みて捨つべき  
うたゝ寝の夢のそらごと

2. 『はり師きゆう師・あん摩マツサージ指圧  
師国家試験全科の要点』（本文一〇巻）

本書は、一九九五年八月一日発行の、株式会社医  
歯薬出版刊の同書を漢点字訳したものです。

一九九三年から新あはき法（あはき“は”あんま

・はり・きゆうの略）に基づいた国家試験が実施さ  
れ、翌年本書の初版が刊行されました。本書の原本は  
その第二版です。本書は、理療科各一四科目を、それ  
ぞれコンパクトにまとめて、国家試験の受験生をター  
ゲットに編集されております。しかし、受験生ばかり  
でなく、既に理療を業としている者にとつても、臨床  
上のノートとして、十分役立てていただけるでしょう。  
漢点字版は以下のような巻分けになっております。

- 第一巻 解剖学（一）・第二巻 解剖学（二）、病  
理学概論・第三巻 生理学・第四巻 臨床医学総論、  
同各論（一）・第五巻 臨床医学各論（二）・第六  
巻 あん摩マツサージ指圧理論、はりきゆう理論・  
第七巻 経絡経穴概論・第八巻 東洋医学概論・  
第九巻 東洋医学臨床論、リハビリテーション医学  
第一〇巻 医療概論、衛生学・公衆衛生学、関係法  
規

なお、本書は、一九九七年に活字書が改版されまし  
た。それにとめない、この漢点字訳書も、本年一〇月  
以降の発行ができないことになりました。ご注文は、  
八月末までにお願ひ致します。

いつぬれし松の根方ぞ春しぐれ

これは鎌倉瑞泉寺の境内にある久保田万太郎の句碑のものです。昨日久しぶりにわが家から歩いて鎌倉の山を越え瑞泉寺に降り、満開の梅を見物しました。天気もよく寒さも和らぎ、境内はふくよかな香りに溢れていました。

この寺にはこれまで何回も訪れているのですが、今ごろこの碑に気がついたのは、「朝日歌壇俳壇」の入力・漢点字変換を担当するようになったこと、またこの場をかりての俳句の真似ごとなどしたりして、少し関心が出てきたせいでしょう。ですが特にこの句に注目したのは「春しぐれ」という字句があつたからです。この朝、見たばかりの朝日新聞のコラム『天声人語』が季語の「時雨」について触れていたのを思い出したので。ご覧になった方もおられることでしょうか。この「時雨」は四季いつでも通用する季語だということです。冬は「時雨」、春秋は「春時雨」、「秋時雨」です。冬は「時雨」、春秋は「春時雨」、「秋時雨」。そして夏はといえば「蟬時雨」。

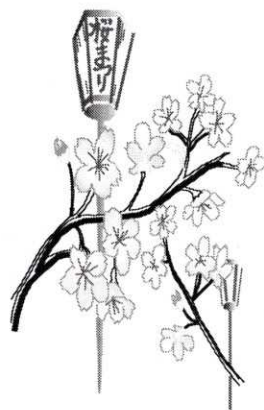
この地へ移つてからもう二五年、ですからこの鎌倉後背の山周辺を歩いたのもその位になるわけです。最初の頃、下の娘をおんぶして登つたのと、また少したつてよちよち歩きながら、ついてきたのを覚えています。大人のスピードを殆どゆるめなかつたので成長するまで、子供は駆け足にならざるを得ず、本人はさぞ大変だつたことでしょう。おかげさまでか学校では徒走、マラソンなど上位だつたようです。山の中の適当な場所に腰をおろし、おにぎり弁当が格別おいしかったのが思い出されます。横浜最高峰？円海山が家から近いので、鎌倉まで二時間足らず、瑞泉寺の他、建長寺、覚恩寺、八幡宮、またあとからできた金沢自然公園（動物園）、また途中にあるこれも比較的新しい自然観察園等々、いくつかの市民の森と連なつていろんなコースがとれます。長年いつのまにかこの地域の地図が頭に入つてしまいました。季節やその時々状況にに応じてだつたり、その時の気まぐれで降り先を決めたりしています。早春の梅の時季は瑞泉寺、深秋の頃を見計らつては紅葉谷（これは最高！）へとか、四季それぞれに楽しむことができます。山の上の天園というところに「峠の茶屋」（二軒あるが下のほう）があつて、よくそこで一息入れます。茶屋の人とも馴染みになつてしまいました。かつては我々総勢五人だつ

たのが、今では夫婦二人だけとなっています。休日である必要もないので人出も少ない、自然に囲まれた静かな時をゆっくり過ごせませすし、健康と老化防止のためにもできるだけ続けたいと思っています。

今年は雪の回数も多く山道はぬかるんで歩きにくいだろうと、しばらくごぶさたしていました。朝は曇りがちでしたが、もうよかろうと天気予報を信じて飛び出したのは、正解でした。山の中の早春の清涼な空気と森の佇まいは期待に違わず、気分を一新させてくれました。途中、今年初めての鶯の声に出合ったのにも思わぬ感激で、まだ幼く拙い鳴き方も新鮮でした。口笛で真似したらちゃんと思えてくれました。子供達と一緒にの頃もよくやったものです。

皆さんも自然とのふれあいに、たまには山への散策などいかがですか？

(三月一日記)



今日春の選抜、横浜高校が優勝、満開の桜がわっと舞ったというところでしょう。

ところで今年はいつもの年にくらべて、近間ばかりですが、結構あちこちで桜見物をしたことになりました。雨が降ったけれど風雨とならず、かえって気温が下がって花の盛りが長持ちしたことにありましよう。わが家の近くにあるゴルフ場（磯子カントリー）の入り口から、クラブハウスまでの登り坂の並木と駐車場周辺、これはたいへん見事で毎年必ず散歩で訪れます。

横浜桜名所になっている日野・港南中央にかけてのこれも坂道の「桜道」。人に聞いて初めての富岡総合運動場、桜も噂に違わずでしたが、その日は日曜日でしたので、昼間からすき間なくごさを敷いてのお花見で人が溢れておりました。

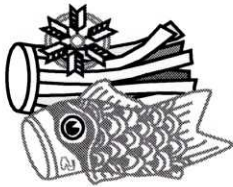
そして今朝、上大岡方面に行ったついでがあり、適当なところに車を置いて（駐車違反！）、蒔田・弘明寺間、大岡川沿いを歩いてきました。かつてその近くに税務署があり確かその用事で前にも一度通ったことがあって、知ってはおりました。今回は両岸をゆっくり往復してじっくり桜見物としゃれこんだ？わけですね。なんとも素晴らしい眺めでした。両岸から無数の桜の枝が川面を覆うかのようにせり出し、重なり連なる景色は豪華なものです。しかもそれが1キロ以上でし



ようか、えんえんと続いていきます。感じのよい遊歩道が両岸に整備され、ゆったりと鑑賞ができるのです。確かに大岡川の水はあまりきれいとは言えないし、匂いもよくありません。ですが、素晴らしい景観がそんなことを吹き飛ばしてしまいます。よく見ると川には大小各種の鯉がたくさん泳いでいます。そのように環境造りをしているのでしよう。

もう桜は散り始めていました。川面に舞い降りた桜の花びらが数限りなく浮かんでゆつくり流れていきます。桜の見頃はおそらくだれしも満開の時と考えることでしょう。でも私にはそれは散り始めにあるような気がします。満開の桜木から花びらがはらはらとこぼれて、その下を通る自分にも降りかかる、こんなの想像だけでも最高でしょう？本当に今年は桜を堪能することができました。

花吹雪舞って錦の鯉の背に



(四月八日記)

## 点字投票

代表 岡田 健嗣

この四月五日、横浜では市長の選挙が行なわれた。おおかたの予想通り、現職の高秀秀信氏が当選され、三期目をお勤めになられることになった。この選挙を機会に、点字投票の仕組みを調べてみた。

視覚障害者が選挙権を得たのは、戦後昭和二五年に普通選挙法が施行されてからであった。現在投票を行なうには、規定された時日に、規定された投票所を訪れて、所定の投票用紙に立候補者の氏名を記入して、二つに折って投票箱に入れる。つまり、一般と全く変わらないのである。ただ違うのは投票用紙で、やや厚めのものが用いられている。

現在の選挙制度による普通選挙が実施されて、視覚障害者が投票所へ出かけて行くようになったのは、昭和二五年以来であるという。選挙法によれば、「点字を書くことのできる視覚障害者」に、その権利が認められたのである。しかし、当時、投票日に投票所に出かける視覚障害者がどのくらいいたのか、またどの投票所でも現在のように点字投票を認めたのか、実体は分からない。私の記憶を辿れば、投票用紙に厚手のも

のが用いられるようになったのは、昭和四〇年ごろと思われ、点字の選挙公報が公職選挙法にうたわれているように、投票日の二日前までにとどくようになったのは、随分後になってからである。

そこで、横浜市の選挙管理委員会に幾つかお尋ねしてみた。

#### ①点字を使用していない視覚障害者の投票について

代理投票ができる。これは、選挙管理者二人が代理となり、その一人が本人に代わって投票券に記入する。他の一人がそれを確認して、その後投票するのである。これは、選挙法の「秘密の保持」には抵触するが、選挙権を優先させた方法である。

#### ②歩行誘導のための付き添いの容認

通常付き添っている付き添いは認める。ただし、不正あると思われる場合は、選挙管理者の判断で、断ることもある。

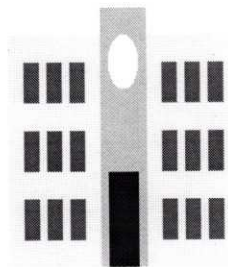
#### ③点字を使える晴眼者が、点字投票を希望する場合

選挙法には、晴眼者の点字投票は想定されていない。恐らく断られるでしょう。

#### ④在宅投票について

公正な選挙を実現するためには、在宅投票を制限しざるを得ないのが現状である。今後の改善の余地は大きい。

さて、最後に『漢点字』での投票についてお尋ねした。「点字投票は、制令で規定された点字で記入された投票券で行なわれるものをいうので、それ以外のものは無効とされるでしょう。また、開票に当たる者全員（横浜では一八カ所の開票所があり、一人ずつ点字の読める人が詰めている）に、『漢点字』を覚えてもらわなければならぬという物理的な限界もあります。」と、「漢字で書きたい、というお気持ちは理解できますが」と前置きしながらお答え下さった。



## 小特集『漢点字訳書紹介』パート2

【現在定期刊行中の新聞記事】

### 1. 朝日新聞 毎週月曜日掲載

「朝日歌壇」 選者(佐佐木幸綱先生・近藤芳美先生・馬場あき子先生・島田修二先生)

「朝日俳壇」 選者(飴山實先生・川崎展宏先生・稲畑汀子先生・金子兜太先生)

### 2. 健康記事 新聞の健康記事より

朝日新聞 日曜版掲載「内視鏡」

読売新聞 家庭とくらし欄掲載「医療ルネサンス第11部 癒しのファイル」

(現在は「パーキンソン病」)

【定期刊行物】

### 「横浜通信」隔月刊(奇数月) 横浜漢点字羽化の会発行

掲載内容は、日本語や漢字に関する読み物・健康記事・昔話・歌詞等。

「うか」の記事の一部も漢点字で読むことができる、60頁前後(漢点字の両面打ち)の小冊子。「朝日歌壇」「朝日俳壇」「健康記事」の読者には無料でお届けしています。

【漢点字訳予定書籍】

### 【健康記事】

#### 1. 朝日新聞 日曜版掲載「やさしい免疫の話」(全24回)

1997年10月15日～1998年3月29日

#### 2. 朝日新聞 日曜版掲載「薬とつきあう」1998年4月5日～

薬をめぐるさまざまな話題や薬との賢いつきあい方の紹介記事

#### 3. 読売新聞社 健康・医療問題取材班 編「健やかへのデザイン - 医療ルネサンス PART IX」 1997年12月31日第1刷 読売新聞社刊

目次より 三木卓さんの「生還」・脳卒中後のケア・治療行為の苦痛・男と女の更年期・C型肝炎・食と栄養・性の健康学・皮膚の病気・おしりの健康・寄生虫SOS

#### 「医療ルネサンス」シリーズ既刊本より

「変わる医療現場 - 医療ルネサンス PART I」脳ドック、糖尿病、整形外科他

「現代病の周辺 - 医療ルネサンス PART II」心臓病、肝臓病、胃ガン他

「病との共生 - 医療ルネサンス PART III」ガンのQOL、痴呆老人ケア、東洋医学他

「健康への指標 - 医療ルネサンス PART IV」たばここと病気、肥満を防ぐ他

「優しさのカルテ - 医療ルネサンス PART V」在宅ケア、どうする医事紛争他

「命のプリズム - 医療ルネサンス PART VI」アトピー性皮膚炎、肺がん、高血圧と低血圧他

「生へのハーモニー - 医療ルネサンス PART VII」ガン告知、在宅ホスピス他

「やすらぎのケア - 医療ルネサンス PART VIII」ガン検診、胃腸の病気、突然死他

#### 4. 長倉 功 著「現代養生訓」1997年6月5日第1刷 朝日新聞社刊

目次より 検査の心得・がん予防最新情報・カビの恐怖・歯の寿命・家庭医のススメ

5. 蒲松齡 著／増田 渉・松枝 茂夫・常石 茂 訳

奇書シリーズVI「聊齋志異」上下巻

1994年7月25日初版第16刷 平凡社刊

志異文学の集大成と呼ばれる作品。

6. 小泉 八雲 (ワガク・イェ・ハン) 著／上田 和夫 訳

「小泉八雲集」

1991年11月20日 第31刷 新潮文庫刊

以下の作品集より代表作を新編集、新訳で収録した作品。

作品集名 「影」「日本雑記」「骨董」「怪談」

「天の川物語その他」「知られぬ日本の面影」

「東の国より」「心」「仏陀の国の落穂」「霊の日本にて」



7. 大岡 信 編「現代詩の鑑賞101」

1996年9月25日初版発行 新書館刊

代表的な詩人55名、101編から成る詩集。

8. 新選現代詩文庫第117巻

「新選 鈴木志朗康詩集」

1981年10月1日第2版 思潮社刊

「家庭教訓劇怨恨狼難雜篇」から・「完全無欠新聞とうふ屋版」全編・「やわらかい闇の夢」から・「見えない隣人」から・「家庭の日溜り」から・「日々涙滴」から

9. 佐佐木 幸綱 著「作歌の現場」

1982年7月25日初版 角川書店刊

現代歌壇の中核で、「男のロマン」をうたいつづける著者が、実作者・研究者として自ら模索した二十余年の体験から、作歌の根にある問題を掘りおこして、古典と現代の作品を例示しながら実証的に「作歌とは何か」と語りかけたのが本書である。(本書帯より)

10. 佐佐木 幸綱 著「手紙歳時記」

1980年3月10日初版第2刷 TBSブリタニカ刊

目次より 「死の武器」といふ小説を(三島由紀夫)・自前の文体(志賀直哉)・見下されては長居は御邪魔(藤蔭静枝)他



11. 永瀬 清子 著「すぎ去ればすべてなつかしい日々」

1990年6月15日第1刷 福武書店刊

1988年1月6日から89年9月27日まで、  
大阪毎日新聞に連載されたものに、加筆修訂を  
施して出版されたもの。

目次より 「幼かりし日々」「私を教えた人々」  
「父母のことども」「私の読書」「若い日々の夢」他



12. 新潮社100年記念「新潮」7月臨時増刊  
「新潮名作選 百年の文学」

1996年7月31日発行 新潮社刊

内容 小説・対談「百年の短編小説を読む」  
(大江健太郎・古井由吉)・評論・エッセイ・  
追悼文・コラム傑作選・一頁近代作家論等

13. プラトン 著／久保 勉 訳 「饗宴」

1996年7月5日第63刷 岩波文庫刊

原題の「シンポジオン」とは「一緒に飲む」という  
ほどの意味。一堂に会した人々がワインの杯を重ねつ  
つ次にエロス(愛)讃美の演説を試みる。最後に立った  
ソクラテスが、エロスは肉体の美から精神の美、さら  
には美そのものへの渴望すなわちフィロソフィア(知恵の愛)  
にまで高まると説く。さながら1篇の戯曲を思わせるプラトン  
対話篇中の白眉。(本文カバーより)



14. 金谷 治 訳注「論語」

1996年4月5日第55刷 岩波文庫刊



【辞典類】

15. 野村 雅昭 編「用字用語辞典」

1993年8月15日第6版 東京堂刊

16. 秋庭 隆 編集／浮田 典良・中村 和郎・高橋 伸夫 監修  
「日本地名大百科 ランド ジャポニカ」

1996年12月20日初版 小学館刊

原本巻末の「地名索引」「難読索引」を50音順及び漢点字順の2種類の索引として作成する予定。

## 点字から識字までの距離 (六)

山内薫 (墨田区立緑図書館)

「手話はろう者社会の言語である」という。しかし、視覚モードを用いること、親子間伝承による言語習得の機会がほとんどないという特殊性のために、長い間、自然言語として認められてこなかった。そのために聾学校では「口話教育」が行われ、その結果として次のような事態を招いてきた。

「ある大都市の障害者福祉センターで年間一二〇名余りの聴覚障害者の相談にあたっている職員が利用者を分類したもののよれば『コミュニケーションが音声言語または文字言語を用いて十分可能であるのが五％、音声言語を活用できるが、ことばの理解が劣り、正確な筆談が難しいのが一五％、手話が中心で、筆談は意味不明、発語読話も非実用的であるのが八〇％』だそうである。誤解のないようにつけ加えるならば、最後の八〇％の人たちも文盲ではない。ほとんどが小・中学部九年の義務教育を終了しており、その前後の幼稚部と高等部の段階を合わせて十数年にわたってろう教育を受けてきた人も少なくない。従って、字を読んだり書いたりすることはできるし、語彙も相当わかるのだが、文節や句の意味が理解できないのだ。」また、

「ろう者の言語力が十分に発達しないというのは世界的な現象」で、日本では「九才の壁」、アメリカでは「三学年の天井」などとうろく教育で言われているように、ちょうど抽象的な概念を獲得するその時期に、ろう児がついて行けなくなることを示しているという。アメリカとカナダで行われた大規模なろう児の読書力調査によると、十才児の平均が二・七学年、十六才児の平均が三・五学年と十才から十六才にかけての六年間で、その読書力は僅かに〇・八学年分しか伸びていないという結果が出ているという。イギリスでも「先天性のろうで、学校を卒業した者の九〇％が満足に読み書きができないという報告があり、スウェーデンではろう者の会の元会長が「ろう者の一〇％は読み書きができるが、四〇％は新聞がかるうじて読める程度で、残りの五〇％は書記言語を使うことが全くできない」と推定している。(\*)

こうした問題に対して、スウェーデンでは、国際障害者年の一九八一年に国会で、スウェーデン手話とスウェーデン語を両方学ぶべきだという法案を可決し、世界で初めて手話が言語として公的に認められた。そして、一九八三年から聾学校のカリキュラムが変わり、ろう児は手話を第一言語として幼い頃からその親と共にそれを学び、聾学校へ入ってから第二言語としてス

ウエーデン語を学ぶようになったという。一九九五年にはフィンランド、ウガンダ、スロバキアなどでも手話に関する独立した法律が策定されている。

日本では、およそ五〇万弱の聴覚障害者がいるが、手話を母語とする者数の数は非常に少ない。三〇年前には二万人を越えていた聾学校の生徒数も最近は一八千人程に減っていて、普通学級や難聴学級で学ぶ子どもが増えている。つまり言語獲得臨界期以前にろうのコミュニケーションに接して、手話を母語とする人の数は予想よりもはるかに少ないという。今年初めにやつと民法が改正されて手話による遺言が認められるようになったが、手話は、点字と同じようにさまざまな局面で制度的な差別を受けている。

また、手話の社会的地位の問題点の一つとして、一般に手話が福祉の手段であることが考えられている、という指摘がある。手話学習者の学習目的がボランティア志願である場合がほとんどであるため、手話通訳は言語通訳というよりも福祉ボランティアと位置づけられ、英語通訳などに比べても報酬はかなり低く、語学校などでも手話は教えられていないし、大学の語学科目にも入っていない。例えばカリフォルニア州立大学システムの全校では、博士課程の要求資格の一つである外国語の能力の一つとして、独立したことばとし

て手話が認められており、アメリカではほとんどの大学で手話が開講されているという。

このような状況は、法的にも教育の側面でも、点字が置かれている状況と、そして日本語の書記言語に、より近い漢点字がほとんど無視されている現状と、かなり共通しているのではないだろうか。

ところで、ろうの弁護士である松本晶行氏が昨年出版した『ろうあ者・手話・手話通訳』（文理閣）という本に「日本語には漢字のイメージに頼った単語がいっぱいある。話し言葉ならまだ問題は少ないかもしれないが、書き言葉、つまり本なんかを朗読してもらったりする時には、この漢字を見たことがないという制約は大きい。」という記述と共に「キシヤノキシヤハキシヤデキシヤシタ」という、例文が載っている。さて……。

今回も『現代思想 臨時増刊 ろう文化』、自身聴覚障害の図書館員である、斉藤禎子さんの「ろうあ者と図書館・困った時に駆けつける所の一つに」（『図書館雑誌』一九八一年一月号）（\*）、「聴覚障害者と識字問題」（『障害者サービスのいまを問う』図書館問題研究会 一九九一）、『言語』一九九八年四月号「特集手話の世界」（大修館）などを参考にしました。

# となりのシロ-君(6)

漢字と秦の始皇帝

仲間はどれは？  
どの字？

見た目にだまされないこと！  
ヒント・音読みしてみても

②  
王 往 狂 皇

“王”の  
仲間さがしだね

①  
羊 魚 子 高 岩

③  
町 男 男 富 界

どれも“田”  
が入ってるわ

じつと見て  
いると形が  
見えてくる  
みたい…

“男”と“町”は  
この前やったから  
わかるけど…

田 + 介  
意味を  
あらす  
立音で  
あらす

“界”は田と田のさかいね  
区画してへだてることよ

富の身元調査  
家の中にはお酒の  
詰まったとつくり

音読み  
高 ↓ 高 ↓ 高  
子 ↓ 子

答はページの  
欄外です

分け目をつけるように  
意味もよめる





①の答 岩(山+石の会意文字)

他は象形文字

②の答 注(主の仲間) 他は王の仲間(往の主は足十王)

これから  
ちよつと勉強よ



山 山の形(象形文字)



上 位置を示す(指示文字)



鳴 口十鳥(会意文字)



中国ってね  
すく  
広いの

今のように交通が  
発達していない時代  
のことだから  
人が移動するのに  
気の遠くなるほど  
時間がかかったのね



だから  
地方で使われる  
ようになる間に  
もとの形が  
変わったたり  
新しい字が  
あつちこちで  
作られたりしたのよ



ミキちゃん  
中国って  
どのくらい古いか  
知ってる?



中国  
四千年の  
歴史!



そう  
その半分の  
二千年ちよつと前  
秦の始皇帝という  
王様が中国を  
一つの国に  
まとめたの



BC 221 統一



へえ!  
それじゃあ  
その前は国が  
いっぱいあつたんだ



その王様  
強かったんだね!



そう  
本当に頭がよくて  
強い王様だったのよ



そこでこの王様  
何やったと思う？

うーん  
国中を歩いたかな



まあそんなところね  
色々なことを  
やったけど  
実は

国中で使われていた  
文字を整理して  
同じ文字がどこでも  
使えるようにしたのよ！

ニヤーン...



えっ？  
じゃあ  
それまでは？

中国の歴史  
四千年の半分は  
広い中国の  
あちこちで  
色々な文字が  
使われていたのよ  
そして  
この始皇帝が初めて  
文字を整理したの

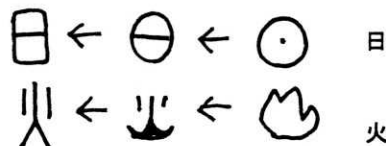
今の漢字のもと  
はこの王様が残したのね

へえ！  
で漢字が  
“四角い”のは？



漢字の初めは  
絵よね

それがだんだん  
真っ直ぐな線と  
点を使うように  
なったんだけど  
この王様が  
それを整理したの



そうか！  
それで胃袋も  
頭の骨も魚も

みんな四角く  
“田”になったんだ！



まだっづく...

③の答 富(田は容器の中身が詰まっていることを示す)

他はたんぼの田

# 「となりのシロー君」欄外編

会員 吉田 信子

機関誌「うか」では、マンガの絵を担当しています。ごらんのようにたくさんの方に簡単な目鼻が付いた漢字と漢点字の学習マンガ？です。ストーリーは毎回岡田さんが考えてくれますので、Eメールでせりふが届いてからが私の仕事です。4ページちょうどで納まるようにコマの割り振りを決め、枠と文字を印刷してから絵を描いています。作者の意図をできるだけわかりやすく、いきいきと伝えることができると願っています。人に見て（読んで）もらえるものを作るということは難しいと、毎回痛感しています。

とはいえ、パズルのようにコマ割りをあれこれ動かしたり、字源を調べたりするのは楽しい作業でもあり、与えられた枠内で悩むというのはけっこう性にあっているのかもしれない。



連載も6回を迎え、だんだん漢字にも深入りしてきたようです。マンガなので気楽に描ける部分と、漢字に関するところでは間違つてはいけないうと気を使う部分があります。発言する順に登場人物の居場所が変わるというリアリティのなさはまあいいとしても、字源や字形については、つけ焼き刃ですが調べました。

今回のクイズや漢字の変遷の例字は、岡田さんから特に指定がなかったのですが、できるだけわかりやすいものを探したのですが、どの字も予想以上に選ぶのに苦戦しました。

たとえば『会意文字』。日と月でとつても「明」と勝手に解釈していましたが、そう単純ではない。『日』は太陽の「日」でなく、『囧』（まど）と考えるのが主流の説のようで、月の光が窓からさし込んで明るいという会意文字になります。日十月と囧十月の二通りの字を認める本もありました。（前者の場合は会意ですが、この場合の「日」も「光る」意を添えるため、お日さまの意味はないとのこと。後者の



場合は、形声文字。字音はベイで“凹”（ケイ）が音を表すとありました。）

「知らなかった…」というわけで“明”はあきらめて、“羊十大”とされる“美”の字を選んだのですが、「字統」を見ると、美は羊の全形を表す象形文字であるのでこれもやめておきました。

最後に今度は大丈夫と選んだのが“鳴”。これも多くの本に口十鳥で鳴くとあり、とてもわかりやすいので決まりと思ったのですが、「字統」を開けて、また真つ暗に…。

同じく会意文字ですが、「口は口(さい)、祝祷を収める器。神に祈り、鳥のように

よって占う鳥占(とりうら)のしかたを示す字。」とあります。そういうえば、昔の“口”の字の形は器のようにも見えてきます…。

鳥の字についても元の形を、鳳凰とするものや雄鶏の形としたりいろいろで、説明の絵を見るとそのどちらでもなかつたりです。最も一般的な説明として、口の形と鳥の形で示すことにしました。その他、象形文字が指示文字かで分類が違つたりして、説の一致する安全な文字と言うのは本当に少ないのだと知りました。



字源や古い文字の形は、主に左記の本を参考にしました。今までも絵の都合などで勝手に説がチャンポンになっているかもしれません。お気づきの点がありましたら、“やさしく”ご指導をお願いいたします。

「字統」(白川静 平凡社)

「漢字の語源」(山田勝美 角川書店)

「漢字なりたち辞典 藤堂方式小学生版」

(藤堂明保 ニュートンプレス)

「につぼんご? 漢字」(明星学園・国語部著)

「漢字源」(学研)・「漢語林」(大修刊書店)

## 目だけでわかる キャラクター

さくらんぼ目のおねえさん

優しい顔にすぎ

派手なアクセションが

できないのが難点

くつつき眉毛につぶらな瞳

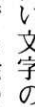
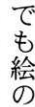
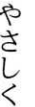
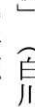
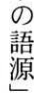
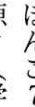
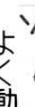
わかると眉が離れ

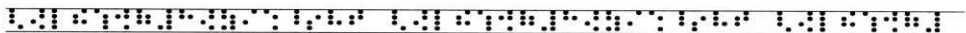
ます

よく動くの字目

最近丸顔になって

きたような…





(ニ)		西	壬	旨	丞
(4 5 6 の点)		永	冷	𠂇	改
(又)		匆	刀	白	
(ネ)		衣	劍		
(ノ)		庚	米	禾	段
(ハ)		母	延	支	遊
(ヒ)		東	戊	咸	皮
(3456 の点)		丈	熱	非	
(フ)		屯	舟	不	賁
(ヘ)		王	将	主	冊
(ホ)		夕	死	旁	亡
(マ)		万	立	了	曼
(ミ)		南	身	足	哉
(ム)		虫	羽	蜀	牟
(メ)		龜	百	自	面
(モ)		勺	氣	包	区
(ヤ)		良	山	矢	乎
(ユ)		彳	優	弓	引
(ヨ)		原	广	予	疋
(ラ)		互	五	胡	
(うさがり)		互	臍	皿	奂
(リ)		里	八	今	帚
(りさがり)		皆	白	旧	臼
(ル)		四	耄	甘	侖
(ルさがり)		必	忽	桜	菊
(レ)		凸	七		
(レさがり)		凹	我	式	用
(ロ)		〇	才	辰	
(ロさがり)		低	欠	鹵	缶

以上。ご覧のように、一つの点文字は、漢字1文字として用いられているとともに、多くの部首として用いられています。ここに取り上げた漢点字は、JISコードに規定されているものですが、その内部首に該当するものは勿論、文字もその要素から、部首として用いられています。

次回からは、具体的な漢点字の組立をご紹介します。

## 漢点字ってどんな字？ 6

前号まで、漢点字の構造について、急ぎ足でお話しして参りました。

漢点字では、一つの点字符号を、多様な部首符号として使用していますが、今回は、漢点字の構造のご紹介の最後として、点字符号の側面から整理してみます。以下、点字の50音順にご紹介します。

(イ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(イさがり)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(45の点)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
			(比較文字あるいは「ヒ」に似た部首に当てる)					
(56の点)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ウ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(25の点)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(36の点)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(エ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(エさがり)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(オ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(オさがり)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(カ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(キ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ク)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ケ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(コ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(サ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(シ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ス)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(セ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ソ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(タ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ツ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(テ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ト)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(チ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(ナ)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
(46の点)	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠

夫（ツマ）の忌の戦友送る門おぼろ  
鈴木 のぶ子

ほぼ10年前私の目にとまったこの句は今も私の脳裏に刻みこまれています。 作者は無名のいわゆる戦争未亡人。夫の命日には忘れずに訪ねてきて仏前で故人を偲び、未亡人を慰めて帰ってゆく戦友。ときあたかも春のおぼろ夜に包まれて遠ざかって行く影絵のような光景が目に見えてきます。

戦後派の皆さんにはこの感慨は分かりにくいかな……

卒業歌あの先生が泣いてはる  
江隈 順子

「あの先生」の「あの」が実に意味深だ。恐らくは、ふだん生徒を厳しく躰けて生徒たちから鬼のように恐れられてきた。その先生が卒業式に教え子達の「仰げばとおとし」の合唱に感涙のなみだを流している。それを見た生徒達のおどろきと感動。このような先生に教わった子供達には「キレル」ことなどないのではあるまいか。「泣いてはる」と下五（シモゴ）を関西弁でしめたのも利いている。

今回は、はしなくも二句とも女性の作品となりましたが俳句の醍醐味を味わって頂けたでしょうか。（朔）

編集後記

平成九年度の最後の仕事として、

横浜市中央図書館へ、芥川竜之介「侏儒の言葉」・

新潮一〇月臨時増刊「短歌俳句川柳101年」を納

入いたしました。また、個人のニーズとして、2つ

の書籍を発行することが出来ました。

これも偏に、横浜市中央図書館をはじめ多くの方々

のご支援の賜と深く感謝しております。

テープ版・ディスク版「うか」の読者より、ご感

想・漢点字訳書のご注文を頂戴致しております。多

くの方々のご意見・ご感想をお待ちしております。

今後も、多くの漢点字訳書を作成していきたい

と、思っております。皆様のご支援・ご協力をお願い

致します。

い致します。

次回の発行は六月十五日です。

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

TEL・FAX 045 (261) 1723

宗助 悦子

\*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断りいたします。



今回はページ見出しの作り方について重点的に説明し、その他若干の補足的説明を加えてみます。

## 1. ページ見出し

各ページの最上段は、通常は右端にページ番号が印刷され、そのほかには何も書かれませんが、大きな本や辞典類などの場合は、ここに見出しを入れたくなることがあります。「漢字源」では、ここにページごとにそこに収納されている親字を入れました。また、「藤村詩抄」では、ここに各「詩集」の名称を入れました。

「漢字源」の場合は、ページ数が非常に多く（約 20,000 ページ）各ページごとに間違いなくその親字を拾って、ページ見出しのデータを作ることは、人手に頼ったのではとても現実的ではありませんでした。そのため、専用のプログラムを作ってページ見出しのデータを作りました。

「藤村詩抄」の場合は、逆に入れるべき「詩集」の名称は4種類しかありませんでしたから、同じページ見出しがずっと続くこととなります。このような場合、EIBRK では、f.6 の「Page 行」で便利に作業をすることができます。この機能の使い方については、当シリーズの(4)で説明しました。ただ、これが意外に理解しにくいことらしく、未だ実際に使ったことのない方が大部分のようです。それに、実はプログラムそのものが未だ十分に完成されたものではなかったもので、実際に使おうと思ってもできなかつたかもしれません。そこで、ここでは以前の説明と重複するところもありますが、もう一度最初から使い方を説明してまいります。

変換・表示画面で f.6(ページ行)を押すと、ページ行（ページ見出し）の編集に入り、画面の下にその内容が表示されます。見出しデータがまだ入力されていないときは、右端に印刷されるページ番号が表示されます。これは、ファイルのページ番号ではなくて、実際に点字印刷されるページ番号です。後で説明しますが、このページ番号には、巻番号 (Volume No.)をつけることができます。巻番号が指定されていると、数符で区切られて巻番号とページ番号が同時に表示されます。また、「副ページ番号」が指定されていると、これは下がり数字の点字で表されますが、それもそのまま表示されるので、直接確認することができます。

このままの状態では、f.7(次ページ)、f.8(前ページ)を押すことによって、ページ単位の移動が出来ます。ページ単位の移動には、シフト + f.5でページ数を指定してそのページの第1行を表示することが出来ます。

ページ行にデータを入力したり、すでに入力してあるデータを修正したりするには、f.1(入力)を押します。ページ行の左端には、原文のページNo.を入れるようになっていまして、最初はそのページNo.を入力するようになります。ここに何も入れたくないときは、そのままリターンキーを押すか、0を入力して下さい。0以外の数字を入れてリターンキーを押すと、直ちにその数字が点字に変換されて左端に表示されます。0または何も入力されないときは左端には何も出ません。カーソルはページ行に表示されるべき文の入力待ちの状態になります。通常、ここに入力すべき文字列は、本文の表題などで、ここで一々文字を入力するのはばかげています。そのために、f.2(クリップ)が用意されています。これは、必要な文字列を本文や、既に入力されている他のページ見出しからコピー(クリップ)するためのものです。

カーソルが本文の表示領域にある場合は本文から、またページ見出しの行にある時はそこから、必要な文字列をクリップします。クリップすべき文字列には青色の\*や半角英字の記号がありますが、これは無視して下さい。必要な文字列の先頭の文字にカーソルをおいて、f.2を押して下さい。ついで、矢印キーで終点までカーソルを移動し、リターンキーを押すと、この文字列がクリップボードに記憶されます。一旦記憶されたものは、次の文字列を記憶するまで、何回でも使用することが出来ます。

カーソルがページ行データの入力待ちになったとき、そのページの見出しにすでに入力されたデータがある場合は、そのテキストデータが表示されます。最初は上書きモードになっている(カーソルが塗りつぶし型)ので、既入力データを修正するような場合は、必要に応じてINSキーを押して挿入モード(カーソルはアンダーライン型)にして下さい。クリップボードのデータを使いたいときは、f.5(ペースト)を押します。

挿入モードでスペースキーを押したり、DELキーを押したりすると、既入力文字列を左右に移動することが出来ます。こうすることによって、変換後の文字列を中心においたり、左に寄せておいたりすることが出来ます。スペースは、半角モードのままでも全角スペースが入力されますが、一般の文字入力には、CTRL+XFERで全角文字入力モードにしてからにします。入力終了後はもう一度CTRL+XFERで全角入力から抜け出すことを忘れないように。

入力が終了したら、リターンキーを押します。そうすると、直ちに漢字変換が行われて表示され、確認の入力待ちになります。これでよかったら、そのままリターン、そうでなかったら、←または BS キーを押します。ESC キーを押すと、原文ページの入力へ戻ります。更に ESC を押すと中味を変更しないで表示画面に戻ります。

何ページも同じ見出しが続くような場合、f.6 (同文) が便利に使えます。これは直前に表示された (f.8 でページが戻った場合も、直前に表示していたページ) 別のページの見出しと同じものを現在のページに自動的に入力するものです。例えば、3 ページに「目次」という見出しがあって、次に 4 ページに移ったとき、未だ何も入力されていないと、ページ見出し入力の状態では何もありませんが、このとき f.6 を押すと、4 ページの見出しとして、「目次」が自動的に入力され、しかもこれはそのまま確定して、ページ行データ入力を終了します。

作業の終了は、f.10 でプログラム全体の終了、f.6 でもとの通常の編集画面に戻ります。

## 2. 「巻番号」の導入

複数の「巻」から構成される書物の場合は、それが第何巻なのかよくわかるように、ページ番号と巻番号を組み合わせた表示をします。それがいつでも簡単にできるように、「オプション」で巻番号を設定するようにしました。f.9 の「オプション」で、7 行目に「巻No」がありますので、ここに必要な数字を入れます。巻番号が不要な場合は、これを 0 にします。また、これは「印刷の実行」の場面でも表示され、再設定が可能です。これらはどちらで設定しても有効です。

当然のことながら、これはファイル単位なので、別のファイルを読み込むごとに設定し直す必要があります。1 度そのファイルに設定すれば、次に設定し直さない限り、そのファイルに特有のデータとなります。

## 3. JIS コードの新旧チェック

コンピュータで用いられている漢字コードは、JIS で制定されていますが、これが 1978 年に最初に制定されてから、1983 年に一部が改定されているのです。1983 年の改訂では、第 1 水準と第 2 水準の間で 1 部の文字 (22 組、44 個) の入れ替えが行われ、さらに 4 個の新しい通用字体文字が追加されて、それらの正字体の文字が第 2 水準に別のコードで追加されました。

これにさらに混乱の度が加わったのが、コンピューターメーカーの対応です。われわれが標準的に使用しているNECのパソコンは、JIS83を採用したのがずっと後で、多分10年ぐらいたってからのことだと思います。JIS83のコードの入れ替えは、いわゆる正字と通用字体の入れ替えで、それ以前は正字が第1水準であったのが（ただし当用漢字や制令文字で採用されている通用字体はこれを第1水準とする）、通用字体が第1水準になってしまったのです（以上、旺文社刊・小和田顯監修：「早引き ワープロ漢字辞典」による）。

漢点字は、旧JIS（JIS78）によっています。したがって、新JIS（JIS83）で入力されたテキスト文をそのまま漢点字変換すると、正字で入れたつもりが通用体に、逆に通用体で入れたつもりが正字になってしまうことがあります。これらを確認するのがまた問題で、使っているパソコンがどのコードを使用しているのか確認し、そこに表示されている文字が、本当に原稿と合っているかどうかをチェックしなければなりません。特に比較的新しいパソコンの場合は、表示される文字は新JISになっているので、これが漢点字に変換されると、旧JISになるのだということを、しっかり頭の中に入れておくことが必要となります。ただ、入力の段階では、どの文字が新旧入れ替わったものかわかりにくいので、そのチェックは以下に述べる方法で、後でこのプログラムを利用して行った方がよいでしょう。

この作業のために、問題となるコードの漢字を見つけだして、これを目的の文字と合わせるために、コード変換すべきかどうかをチェックするツールとして、SINQCHK.EXEを作りました。このプログラムを動かすと、最初にファイル名を聞いてきます。必要ならパス名まで入れて、ファイル名を入力して下さい。最初から「SINQCHK」のあとにスペースを空けて、続けてファイル名を入れれば直接編集の画面に入れます。

このプログラムが検索するのは、上述の26組の漢字コードのみですが、それが見つかり、該当する文字を黄色で示し、現在のコードと、それを変換すべきコードとそれぞれに該当する漢字を並べて表示します。ここでコード変換をするかどうかを聞いてきますので、YかNかを選びます。全部終了した段階で、変更されたファイルを保存するかどうかを確認します。

このプログラムは、標準的なEIBRKシステムに入れてありません。必要な方は別途お申し出下さい。

